

学校統廃合と小中一貫教育を考える第9回全国交流集会（福山）

2019・2・23～24

第4分科会 小規模校の教育

大阪・能勢町立能勢小学校 志村 誠

小さな学校の4年生の春夏秋冬

はじめに

- (1) 問題行動と保護者の不信
- (2) スピーチ・「表現」・ミニミニコンサート・給食…
- (3) 『ため池はなんのため？』社会科 朝日新聞の取材10・1
学習発表会11・16
- (4) 「広さは楽しい」面積の学習 算数科 研究授業10・16
- (5) 「戦争のころの子どもの暮らし」社会科 1・10～1・29
- (6) 「二分の一成人式」総合（国語科・保健） 1・10～2・26
学年発表2・24

実践のまとめ

以上の実践を中心に、「表現」・「認識」・「安心」をキーワードにしてレポートします。そして、

- (7) 小規模校のよさを考えてみました

はじめに 小規模校は切磋琢磨できない？

「ねえ、みんな、赤ちゃんが生まれたら、ぼくたち、お兄ちゃんになるん

だぞ。」劇冒頭のセリフを言った子は、しばらくたって「赤ちゃんて、かわいいね。」一人でのセリフはもうありません。

一方「お母さーん。ポンって、たまごわったでしょ、そしたら、ポンってたまごが出てきたね。きのうも、その前もそうだね。」(お母さんのセリフがあって、すぐ)「どうかしないんだね。たまごって。ポンってわったら、いつもきまったものが出てくるんだ。ぼくなら、なんでもよくまちがえるのにね。ちっともまちがえないね。」この後、この子は、10ほどのセリフを一人で言わなければなりません。しかも、幕の開け閉めなど、発表中、ずっと役割がありました。他の役の子どもも同じです。

どちらも学習発表会の劇冒頭のセリフを演じた1年生、前者は3クラスで演じました。後者は1学級6人、小規模校のものです。どちらもシーンとした暗い会場の中、ステージで照明を受けてのものです。保護者の熱い視線を受けてもいます。

これでも、「小規模校は切磋琢磨できない」と言うのでしょうか。為にする言説ではないでしょうか。

私はおおむね1学年4クラス規模の学校を3校、単学級ですが1クラス30名前後の学校をへて、小規模校と言われる学校へ、いずれも担任をしてきました。小規模校で指導して感じたことは、一人ひとりの子どもの活動量が多いということです。発表・指名の量が多く、そして質も高いのです。算数でよく「とき方を考えましょう」という課題が出されます。かつてなら5～6人の子どもに発表させて、あとの子どもは、挙手させたり、ノートを見て確かめたりしましたが、小規模校ですと、一人ひとりに発表させて、全員の種類分けをその場ですることができます。質の高い交流ができ、子ども自身がまちがいにも気づきます。学習効果の高い手だてを取ることが出来るのです。

もう一つ、為にする言説に「人間関係の固定化」があります。多ければ豊かで、少なければ貧しいのでしょうか。人と人との営みを見下したものです。そもそも10才、中学年でも遊び仲間は2桁、10人ほどが成長・発達にふさわしいと言われています。小学生には、100人以上はストレスになるのです。小規模校では多種多様な行事があります。

では、都市部の学校、「学級替えができる規模」の学校に、学級崩壊、い

じめ、不登校、低学力などの課題はないのでしょうか。子どもの生きづらさは、学校の大小を問わず、日本の教育の課題であることは、教育関係者であれば、常識といえるものです。むしろ、(控えめに言って)小規模校のメリットは、日本社会の希薄な人間関係を克服するものとして、注目されつづけてきたのではないのでしょうか。

「小中一貫教育」などという詭弁を弄して、規模の大小を問わず、「学校統廃合」が急速にすすめられています。このレポートでは、社会科『ため池はなんのため?』、算数科『面積』などの学習を通して、子どもたちが楽しくがんばって、成長を育んでいったこと、「人間関係の固定化」を克服して安心のある集団を作っていったことを見ていただき、あわせて小規模校・少人数教育のよさについて考えていきます。そのことによって、「学校統廃合」への批判とします。

本校のある能勢町は、大阪府の最北端にあり、兵庫県・京都府に接する中山間地の人口1万人あまり町です。農業を主産業としますが、ほとんどが第2種兼業農家です。2016年3月まで小学校5(6)校中学校2校あり、2016年4月から同一敷地内に1小学校1中学校に統廃合されました。本実践の廃校となった東郷小学校は、警備員・給食調理員・ALTを含めて19人の教職員に見守られた、6学級・1支援学級、児童数42名の小さな学校です。校区はため池がたくさんある小さな盆地のような地形で、田畑の美しい地域です。昼間、ひっそりとしています。

課題は都市部の子どもたちと同じ、全国共通のものです。「不安」を抱えながらも、勉強ができるようになりたい、仲間に先生に親に認められたいと願っている、健気な子どもたちです。おとなしいけれど、「存在感がうすい」

「不安」がいっぱいの子の4人の女の子たち、その4年生との1年間のお付き合いの記録・実践です。

(1) 問題行動と保護者の不信

4年生が始まって1週間。野江さんが、4・12(金)に千穂さんに「本当はさくらさんのこと嫌い」と言い、さく

らさんには「また遊ぼうな」と声をかける。さくらは家に帰って母親に泣いて訴え、母親と一緒に来校。話を聞くと、

・・・1年生の時に「嫌い」などと言われたとき、なぜそんなことを言うのか「聞きたくない」と返すと、顔を叩かれたとのこと。1・2年生の時、野江はクラスの中で自分が一番偉い、誕生日が一番早いからだと言っていたそうです。

家庭訪問でしっかりと話を聴こうと思いました。

千穂さん、2年生、野江さんにつばを吐きかけられた。2年生の初め頃からいじめられるようになった。3年生、靴を汚されたり（友里さんも）、筆箱を壊されたり、階段から突き落とされたり、遊んでいた友だちを連れて行ってしまったりされたそう。

買ったばかりの靴を汚されたことでは、千穂さんの母親が野江さんの家に言いに行ったとのこと。その翌日に突き落とされる。母親に叱られたせいだろうとのこと。新品の筆箱をぶついたり落としたりして、1週間で壊されてしまったそうです。

友里さん、2年生、野江さんに丸1日1週間ターゲットにされていじめられた。「友里さんのクラスはひどすぎるよ」と地域の親に言われた。誕生日のプレゼントも要求され、千穂さんとさくらはたいへんと言っていたそう。3年生の時、野江さんは、クラスの前で先生に叱られ、答えられないと泣いていたそうだが、改善されていない。逆に友里さんに「(解決のために) あんたは何をした」と先生に責められたそう。高槻の祖父母宅で「こっちの学校がいい」と何度も言っていた。幼稚園から泣いて帰ってきていたこともあったとのこと。

野江さんのお母さん、「1年生から悩んでいました、友だちとのことで。」毎日子どもに学校での様子を尋ねたそう。自分の気持ちだけになってしまい、相手の気持ちを考えられない。逃げ場がないので、ずっと苦労しています。勉強はいいから、とりあえず、友だちを大事にしてほしい、ウソをつくんです。3年生の3学期に、野江は私だけ仲間はずれにされて、一人ぼっち、学校へ行くの、いややと言っていました。母親、「先生に信じてもらえないのは、狼少年だからだよ、信じてもらえないんだよ」と伝えた。

おもしろい遊びを考えたり、おもしろいことを言ったりする子どもなので人を引き付けるところもあるが、思い通りにしたい気持ちが強い子どもなの

(2) スピーチ・「表現」・ミニミニコンサート・給食・・・1学期～

家庭訪問を終えて、他学年との交流が少ない4年生、女の子4人だけの世界で視野がせまいことも、いじめ、いじめられの世界が続いてしまったと思われました。そこで、まず他学年と交流を多くしたいと考えました。その交流の中で表現し、目的に向かって、力をあわせることの素晴らしさを伝えたいと考えました。

家庭訪問では子どものよいところ、長所を3つ聞くことにしています。これを学級通信に「こんないい子！はだーれ？」とクイズにして、みんなで楽しみます。楽しみながら、友だちのよさを知ったり、確認したりする機会にしています。子どもたちはとてもうれしそうにがやがや。クイズですから、「相談しましょ、そうしましょ」などと煽ります。4人もとてもうれしそうでした。不安がいっぱいの子どもたち、親が、母親が自分のことをほめてくれるのです。友だちの前で認めてくれているのですから、うれしくないはずはありません。自己肯定感を育てるささやかな取り組みのひとつです。

朝のスピーチも毎日しました。朝読書も大切にしました。日記を1枚文集のようにした学級通信をみんなで読むことも。誕生日会も友だちからのメッセージ、遊び・・・、4人ですからゆったりとできます。まず、スピーチです。『学級通信☆(きらりん)』<4年生DIARY>から

6・27(木) 児童朝会でのスピーチ 千穂さん GOOD!

①私は、新しく入ってきたねこのことについて話します。②この前、お母さんが道のはしっこで、黒いねこを見つけて、ひろってきました。③そのねこは、せの高さが、だいたい立っている時は10センチメートルくらいで、すわった時が8センチメートルくらいです。④オスです。⑤名前は黒いから、チョコにしました。⑥他のねこもかわいいけれど、新しいねこだから、チョコが一番かわいいです。⑦チョコはまだ小さいから、自分でできることが少ないです。⑧なので、たくさんお世話をしてあげたいと思いました。⑨これで終わります。

みんなに聞こえる声で、はっきりとスピーチしました。いい！ただ、おし

かったのは、ほんの少し速かったことです。

たまたま、その後の学級でのスピーチも千穂さん。「…9文で詳しく話せたのはびっくりでした。みんなの目線がビビッと来ました。緊張して(少し)早口で言ってしまいました。チョコがかわいいので、もっと説明できたらと思いました。9文も話せたので、うれしかった…」そうです。千穂さん、学級のスピーチではもっと話せていますから、当然の結果でしょう。みんなもね。月曜日は、さくらさんです。

7・1 (月) 児童朝会でのスピーチ さくらさん 合かくです!

①私はしょう来のゆめを話します。②前3年生のときは、大きくなったら、とうふやさんとは医者さんでした。③でも、今は、ローソンではたらくことにしました。④なぜ、とうふやさんとは医者さんではたらくないわけは、朝早いからです。⑤なぜ、ローソンではたらくたいわけは、お金の計算がにがてだからです。⑥うれしいことは、お客さんがいっぱい来てくれることです。⑦でも、私が大きくなって、ローソンがつぶれているかもしれません。(笑い)⑧ローソンがつぶれてたら、ファミリーマートではたらきます。(笑い)⑨そこはどこかというと、どこかのお店です。⑩みなさんのしょう来のゆめは何ですか?⑪これで終わります。

終わりの会で、「自分のこと」コーナーがあり、そこでさくらさん「…今日のスピーチ、きんちょうしたけど、がんばった…」と自分をほめていました。そして、学級通信19号のさくらさんの「きんちょうする」という日記の赤ペンにこう記しました。「よかったですよ、さくらさん。声の大きさ、はっきり言うこと、ゆっくり話す、どれも合かくですよ。…あとは、さくらさんのすてきな笑顔がほしいなあ。」と。

7・4 (木) 児童朝会スピーチ 友里さん 目ひょうたっせい!

①私は今かっている犬のことについて話します。②私は、6月1日に犬をかいしました。③なぜ、犬をかったかというと、私は犬が好きで、ずっと前から犬をかいたかったからです。④犬の名前は、メイです。⑤なぜ、メイという名前をつけたかというと、5月にメイと会って、5月はえい語でメイというからです。⑥犬の大きさはかたはばで、色は白、黄土色、茶色です。

⑦私が思う、メイのかわいいところは、ねる時におなかを出して、ねていることです。⑧早く、私はメイといっしょにさん歩をしたいです。⑨みなさんは、犬は好きですか？

友里さんは、日記「スピーチできるかな」で目標を3点上げていました。1、大きな声で言う。2、はっきりと言う。3、はずかしがらずに言う。まだ、自己評価を聞いていませんが、目標はしっかり達成しました。ちょっぴり笑顔つきで立派でしたよ、友里さん。

7・5 (金) ミニミニ音楽会 服部先生、舟木先生とともにご招待

歓迎の花道、リコーダー♪「パフ」を演奏する子どもたちの間を通過して、私たちは入場しました。♪「歌のにじ」♪「ブラックホール」♪「とんび」♪「おりづる」の4曲を聴くことができました。歓迎の言葉、それぞれの曲紹介、終わりの言葉を子どもたち四人が分担して、手際よく進めていました。お見事です。合奏・合唱はむろんのこと、上手！そのようすがわかる感想を、舟木先生が絵はがきにしたためていただき、プレゼントしてくれましたので、紹介します。

4年生のみなさんへ

今日は「ミニミニ音楽会」にご招待いただき、ありがとうございました!! ミニミニどころか、すごくビッグなライブでしたよ！特に私は、「ブラックホール」がカッコよいと思ったし、「おりづる」もとても大きな声が出ていて、よかったと思いました。全部、たくさん練習したんだろうなあと感じました。すてきなひとときを、ありがとうございました。 ふなき

7・8 (月) 野江さんのスピーチ

私は、しょう来のゆめのことについて話します。私のしょう来のゆめは、医者です。それは、お母さんがとうによろ病だからです。その病気は、とうが100のはずが、400から500になったら、ていけっとうという気ぜつみみたいなことになっちゃいます。そのとうによろ病は、ぜったい治りません。だから、私は、お母さんの病気を、ちょっとでも治したいと思っています。そういう時に、私が甘いものとかを食べさせて、ましにしています。お

母さんをすくいたいです。みなさんのお母さんは、元気ですか？
(以上学級通信21号)

視野を広げるために、「先生」として発表してもらいました。

5・25(土)4人、詩の先生になりました！ 参観と懇談

『いいてんき』は千穂「先生」とさくら「先生」がしました。ふたりで詩を読みました。しっかりしています。続いて「心で読んでください。」「読み終わったら、手を上げてください。」「読んだ感想や気がついたことはありませんか」…4人のお母さんとさくらさんのお父さんと姉さん、服部先生、7人の「子ども」たちを相手に進めていきました。

『さんぽ』は友里「先生」と野江「先生」です。よく聞こえる声で進めていきました。4人の先生、ごくろうさまでした。そして「子ども」のみなさん、ありがとうございました。

『ころ』はしっかり45分がほしい内容でしたが、詩の心をよくつかんでいました。作者名、題名、最後の1行を考えました。題名では参観の方を含めて「ゆうやけ」が多く、千穂さんは「おれとゆうやけ」、さくらさん「きれいなゆうやけ」など、いい題名ばかりでした。野江さんは「ころ」という題名も考えました。最後の1行も姉さんの「まっかだぜ」(いいですね。)、さくらさん「ゆうやけ」、友里さん「おれ ゆうやけとともだち」、野江さん「と はなししたい」「きれいだったり」、千穂さん「ゆうやけ きみのころは」「おれ からす」「おれ ゆうやけになら なんでもいえる」三つも考えました。『ころ』の作者の考えた1行は、「いっぱい もっているんだな」ですが、どれもいい1行だと、子どもたちをほめました。少ない時間でしたので、たくさん読んでもらえなかったのが残念でした。

懇談は、子どもたちのがんばりと、子どもの規則正しい生活の上に、学校的能力をきたえることの大切さをお伝えしました。

5・28(火)また、4人、詩の先生になりました。三校交流で

…2時間目は国語、詩の勉強をしました。「子ども」役ではなく、田尻小・歌垣小のほんもの子どもたちが15人、順番に読んでもらったり、作者名を言ってもらったり、ちょっとまごついたと思いますが、よく通る声で進め

ていきました。よくがんばった子どもたちでした。他校の先生にほめていただきました。めでたし、めでたし。…帰って来ての5時間目はやはり、少し疲れていたようでした。

(以上学級通信15号)

1学期の終わりに、日記の宿題で「1学期心にのこったこと」という内容で書いてくるようにしました。

7月14日 スピーチが心にのこった 友里

私は、1学期一番心にのこったのは、朝会のスピーチです。

なぜ、スピーチが一番心にのこったかということ、四年生になって全校の前で話すので、一番きんちょうしたからです。二年でやったスピーチもとてもきんちょうしました。

私は、スピーチが大きいです。スピーチのどこがきらいかというと、どこでもそうだけど、全校の前に出ると、みんなの目線がビーとくるところです。しかも、はずかしいし…。

でも、クラスでやる朝の会の時の日直のスピーチは、なぜか少しだけはずかしいけど、朝会でやるスピーチよりかは、ましです。他のみんなは、朝会のスピーチをどう思うのかなあ。

だけど、5年、6年になっても、ぜったいすると思うけど…。高学年だから、はずかしがらずにやらないと!!と思う時があります。

5、6年になって、スピーチを言う時の目ひょうにしたいことは、私の4年の時の目ひょうみたいに、①はずかしがらずに言う。②え顔で言う。③はっきりと言う。の三つです。

5、6年のスピーチの三つの目ひょうを守って、言いたいです。

○きんちょうする、そうでしょうね。きんちょうして当たり前ですよ。そして、友里さん、しっかりみんなの前でできたでしょ。「みんなの目線がビーと」きてもね。かっこよくできた友里さん、もっとかっこよくなるう。

野江さんは1年生との交流について書いています。

7月16日 心にのこった 野江

金曜日の読書タイムに、1年生に詩を読んだことがあります。そこで、一番心に残ったことが三つあります。

その1がわたしがあいさつしたら、元気よくあいさつしてくれたことです。

その2、わたしが詩を読み終わったら、かわいい詩を2～3こ読んでくれたことです。

その3、「しつれいしました」と言っろう下に出たら、小さいまどから「バイバイ」「また遊ぼうね」「ありがとう」など、手をふって1年が見送ってくれました。

詩を読んで「ハァー、つかれたなあ」と思っていました。元気よく見送ってくれたから、つかれがにげていきました。わたしはすごく楽しかったし、元気になりました。1年生、ありがとうございました。また、この機会があったらいいですね。しんけんに聞いてくれたから、わたしは、すごくうれしかったです。

○そうですね。「しんけんに聞いてくれた」すごくうれしいよね。Good!です。これからはほかの学年と交流していきましょうね。1年生も詩を読んでもくれた、野江さん、どんな気持ちだったかも書いてくれたら、この日記も、もっとgood!なんだけど…。

2年生には友里さんが詩『水の音』の朗読、3年生にはさくらさんと千穂さんが、落語『じゅげむ』を演じ、それぞれやりがいを感じ、うれしかったそうです。

(3) 『ため池はなんのため?』社会科 朝日新聞の取材10・1 学習発表会11・16

1学期は学級づくりにポイントをおきながら、表現、交流を通して視野を広げるようにしました。夏休みの自由研究、どの子も力作でしたので、その自由研究の発表で他学年との交流を続けました。さらに2学期からは教科のねらいにそいながら進めました。社会科では、1学期『ごみのゆくえ』などで調査活動を展開し、地域のすみずみにくらしをささえるしくみのあることを発見しました。『ため池』ではくらしを豊かにするしくみを学習します。そこに 朝日新聞から取材の依頼がありましたので、ため池の実践を取り上げてもらうことにしました。そのドキドキぶり、ようすを紹介します。

10月7日 記者とため池にドキドキ 野江

10月1日に、記者が来てくれました。

わたし、記者が来る前の日から、心がドキドキ、心ぞうがバクバクいって
いました。その日は、ねむれない位でした。

記者が来て、

「ヒューヤ。」

と思ってました。ため池に行く時、ドキドキ感がたまなくて、今にも泣き
そうでした。

もう、来てほしくないです。はずかしいし、きんちょうもするし、テレビ
などに出たくないからです。ため池のことを言う時に、わたしはたおれそう
でした。

けど、今考えたら、ちょっと楽しかったと思います。

深さを調べた時、3m～4m位かなあと思っていました。石を投げた時、
けっこう深そうだなあと思ってました。予想外かなあと思いました。下池と
上池、どっちが深いんだろうなあと思いました。

1回、ため池に落ちそうになって、4m位の池にはまったらあぶないところ
だったと思って、あせってました。

ため池は、2回しか見たことがないので、ため池ってこんなんやったけ？
と思ってました。すごく楽しいため池さがしになったと思います。

次は、ちがうため池を調べて、見てみたいです。

○そうですね。また調べに行きましょう。ところでワクワク、ドキドキすごかったんだ！
でも、ドキドキ、ワクワクをパワーにかえた野江さん、とてもいいなと思いました。
とてもがんばって、かっこよかった野江さん、つぎつぎとしょうこを見つけていきま
した。その時のことを書くと、もっといいのになあと思った日記です。

10月7日 ドキドキしました 千穂

火曜日に、取材がありました。

わたしは、3人っていったいどんな人が来るのか、どんなことをするのか、
どこをとられるのかが心配で「ドキドキ、ハラハラ」していました。

服部先生の車がつきました。まどをのぞいてみると、やっぱり3人。

そこで、「ドキドキ、ハラハラ」が終わってしまいました。

かわりに、「おちつき」が出てきました。なぜかという、やさしそうな人ばかりだったからです。でも、服部先生もいたから、4人に見えてしまいました。

そして、取材では、やっぱり自こしょうかいをしました。わたしは好きな教科を話しました。よく分かっていただけたようなので、うれしかったです。今でも、わたしたちのことをおぼえていてくれてはるかな？

でも、朝日新聞はおおげさだと思いました。勉強しているだけなのに、取材されたから。いつものことだから、当たり前だと思ったのに、へんな顔でうつっていたらいや。3人も来なくていいし、カメラはいらない。動画も見るようにしなくていい。ただ、取材するだけで十分だというぐらい、はずかしかったから。

でも、いっしょにたにがいちの池に行けたのは、楽しかったなあと思いました。仲よくなれたかなあ？

ドキドキハラハラが「おちつきが出てきた」にかわったのがおもしろいなあと思いました。ドキドキハラハラはなるほどと思いましたから、新聞社の3人を見たら、平気になってしまうのがね。楽しい勉強になりましたね。

さて、このため池の実践のねらいは

①ため池には、くらしを豊かにしようとした地域の人々のねがいがあったことを知る。

②調べ方を考え、フィールドワークや聞き取りなどの学習方法を知る。

指導計画は、全16時間で、

- | | |
|--|-----------|
| ①校区図でため池の数を調べ、予想する。 | 1 H |
| ②なぜ、こんなにため池があるのか予想する。そのわけも。
どうやったら確かめることができるか、その方法を考える。 | 1 H |
| ③池は何のためにあるのかフィールドワーク。〈朝日新聞取材〉 | 2 H |
| ④土地の高低をつかむ。 | 1 H |
| ⑤校長先生に聞こう | 2 H |
| ⑥かんばつによく見まわれる能勢 | 1 H |
| ⑦池を調べる。池のしくみ（堤防・樋）広さ・立地 | 2 H + 1 H |
| ⑧〈乗坂池の水を利用している田〉 | 1 H |
| ⑨〈いつごろつくられたのか〉 | 1 H |

⑩学習のまとめ	2 H
⑪評価<テスト>	1 H

16時間ほどの学習を終えての感想文で、ねらいは一応達成されたのではと考えました。

友里

ため池は、田んぼのいねが育つためにつくられました。乗さか池の水をつかっている田んぼが多かったです。ため池がたくさんあるのは、田んぼのいねが育つようにだと思えます。今も、田んぼに入れる水に役立っているのだと思えます。

私は、いろんな池を調べて、わかったこと・思ったことは、たにがいちの池は、広さが教室の2～3こ分あったこと。たにがいちの池は昔、プールが無かったから泳いでいたこと。もし、私がタイムスリップして池で泳ぐなら、ぜったいおぼれていると思えます。それどころじゃなく、こわくて泳げないと思えます。

乗さか池は、1回つくったけど、水不足になってたいへんなことになって、そこをほり、かさがふえるように工事したのはすごいと思えました。工事しておかげで、米が育つようになったのは、手伝った人たちが、がんばったからだと思えます。

たにがいち・乗さか池をつくるにもたくさんの人が協力し、たくさんの時間がかかったのだと思えました。他の地区にもたくさんの池があるので、そこに行って、何か調べたいです。あと、自分の地区のため池の名前をおぼえておきたいです。

さらに今回の実践では、表現することによって、ねらいを深めていきたいと考えました。学習発表会での表現です。認識を育て、子どもたちの視野を広げ、そして目的に向かって、力をあわせることの素晴らしさを伝えたいと考えました。

その野江さんの学習発表会の感想、400字詰め原稿用紙3枚分の中で再三再四反省していました。

…みんなに、めいわくばっかりかけていたので、それが心配、しんぱい
です。ゆるしてくれたらいいんですが…。

…みんなにも「ここやで。」「次は、行って見ようよのセリフやで。」小さ
な声で助けてもらいました。わたしは、とっとうれしかったです。これか
らは、こうゆうことがなければいいんですけど…。

…今年は、ほぼ全部セリフをおぼえていなかったの、来年は「カンペ
キ。」におぼえられるかは心配です。それは、1年、2年、3年の時も、ほ
ぼ全部おぼえてないからです。

正直といえば正直、それでも、みんなに「助けてもらい」「とっとうれ
しかったです」と綴っていました。3人の子も、セリフをとばされても、忘
れていたたりしても、学習発表会を成功させるという目的に向かって、応援す
ることができたのです。

保護者の方はどう思っていたのでしょうか。

学習発表会の感想

日頃から集中して何かをやる機会が少ない中、何とかして覚えようと、毎
日頑張っている姿を見て「これなら大丈夫。」と思うようになりました。ち
よっと昔の歌も出てきて、一体どんな学習発表会になるのだろうと心配して
いましたが、本当によく頑張ったと思います。

ため池の調査など、あまり地元の人でも知らないようなことをよく調べた
と思います。今度の夏は、ため池に生息する植物・動物というのもおもしろ
いのではないのでしょうか？

能勢の郷土には、まだまだ知られていないようなことが多いので、小学校
卒業までにたくさん出かけていき、ますます郷土を愛してもらえばいいなあ
と感じています。郷土を深く調べていけばいくほど、自分たちがどれほど恵
まれた環境で生まれ育っているか、わかってくるのではないのでしょうか。

4人とも長いセリフが多く、見ている方もハラハラでしたが、最後までや
り遂げたと思います。

一つ、4人の児童にお願いがあります。今回の学習発表会に向けて、いろ
いろ調べた内容は、1回だけで終わらずに、続けてほしいと願っています。
学校の帰り道や友だちと遊んでいる時にも、新しい発見があるかもしれませ

んね。その都度、4人で話し合えたら、もっとチームワークが強くなっていくでしょう。

本当に一生懸命さが伝わってきました。全員に拍手を送りたいと思います。

「…女の子ばかりの学年ですが、声も大きく出ていたと思いますし、少ない人数でも大きな発表だったと思います。…」とほめていただくなど、他の方々のもありがたいものでした。

(4)「広さは楽しい」面積の学習 算数科 研究授業10・16

ため池の実践と並行して、算数、面積の学習に入りました。子どもたちの様子をその指導案から引用します。

「当初情緒がやや安定していない子ども、幼さが見られる子どもたちの間で、ささいなことからトラブルになっていた。そこで、ていねいに学習活動を展開するとともに、学級の明るいトーンを大切にしたい。そして親のねがいも共感的に聞きとることができるように努めた。現在は落ち着いていると考えている。女子4名、授業規律はきちんとしている。がんばろうとする気持ちもよくわかる、まじめな学習態度である。算数では、論理的に追求することに弱さが見られ、操作の意味を十分捉えていないようである。スモールステップをより留意して展開したい。」(学習指導案より)

子どもたちは、興味を持ってとりくみ始めました。

11月3日 広さは不思議 さくら

前に、「広さ」の勉強がありました。どんな勉強をしたかというと、ろう下とすな場の広さをはかったことです。

さいしょに、ろう下とすなの広さを予想して、私と野江さんがすな場で、千穂と友里さんがろう下でした。ろう下はいっぱい新聞紙をひき、はかったら78.5(まい)でした。すな場では、ちょっと新聞紙をひき、xたら96か98(まい)ぐらいでした。なので、予想があつてうれしかったです。

広さは、とても楽しかったです。また、広さの勉強があつたらいいなあと思いました。

こんどは、黒板と先生をつくえの広さの勉強をしたいなあと思いました。私の予想では、多分黒板だと思います。なぜなら、横が広いし、先生をつくえはせまいと思うので、黒板だと思います。みんなは、どっちが広いのかを知りたいです。でも、ほかにも広さをくらべたいけど、今は、つくえと黒板をくらべたらいいなあと思いました。

広さはとても楽しいし、×ざんをしたら便利だったので、5年生でも6年生でもあったらいいなあと思っています。5年生、6年生の勉強はむずかしいと思います。

みんなは、広さは楽しかったですか？

○広さくらべは楽しかったですね。これからもしますよ。お楽しみに。長さ×長さ=広さ、不思議な世界です。不思議な世界にたんけんです。出～発～

さくらさんは、研究授業で予想して自分の考えを発表する、たしかめる、それができて、ほめられ、うれしかったのでしょうか。そして、黒板と机の大きさを比べるなら私にもまたできること、それを楽しみにしたのでしょう。

どんな研究授業をしたのかを、学習指導案から。

算数科学習指導案

指導者 志村 誠

服部 純子

1. 日時 2013年10月16日(水) 第5限(1:50~2:35)
2. 学年 第4学年 (女子4名 計4名)
3. 場所 第4学年教室
4. 単元名 「面積」
5. 単元目標
 - 面積についての単位と測定の意味がわかる。
 - 面積を表す式についてわかり、面積を計算によって求めることができる。
 - 平方センチメートル(cm^2) 平方メートル(m^2) 平方キロメートル(km^2) アール(a) ヘクタール(ha) について知る。
6. 評価基準
 - 面積の大きさを数値化して表すことのよさに気づき、いろいろな形の面積を求めようとしている。(関心・意欲・態度)

- 広さを数値化する方法を考え、測定する広さに応じた面積の単位や求め方を考えている。(数学的な考え方)
- 長方形や正方形の面積を使って求めることができる。(技能)
- 面積についての単位と測定の意味、面積の求め方や単位の関係がわかる。また、面積についての豊かな感覚を持つ。(知識・理解)

7. 系統性

広さの直接比較 任意単位での測定 <第1学年「大きさをくらべ」>



間接比較 個別単位 普遍単位 面積の意味・測定
(保存性・加法性・乗法性)

長方形・正方形の求積公式

面積の単位 (cm²) (m²) (a) (ha) (km²) とその関係

<第4学年「面積」>



平行四辺形・三角形・台形・ひし形の面積の求め方と公式

多角形面積の求め方

<第5学年「図形面積」>



円の面積の求め方と公式 面積の概測

<第6学年「いろいろな形の面積」>

8. 児童について (既述)

9. 単元について

面積とは、平らな面の広さを数値化したものである。長さ・かさ・重さなどと同じように、面積は保存することができる量であり、加法が成り立つものである。広さを広さで測り取ることができる。そして、「たて」「よこ」の長さを乗法によって表したものである。広さを面積という量でとらえ、人為的な普遍単位を導入して数値化して、さまざまな形(長方形や正方形)の広さ(面積)を求積することで求めることができるものである。

10. 指導にあたって

本単元は、1次元の世界から2次元の世界にわたらせる、子どもの認識を飛躍させる格好の教材である。まず、具体物で広

さを広さで測る。重ね合わせる直接比較から、直接重ね合わせることができないものを仲立ちさせる間接比較と個別単位、そして個別単位では測ることが難しい具体物から普遍単位へと導き、面積は測ることができることに気づかせたい。その上になんて、長さ×長さによって、面積を求めることができることに気づかせたい。

11. 指導計画 (全13時間)

第1次 面積の意味と広さくらべ

- ①広さ比べ (直接比較) 1 H
- ②場面に適した広さ比べの方法を考える1 1 H
(間接比較と個別単位) (本時)
- ③場面に適した広さ比べの方法を考える2 2 H
(間接比較と個別単位)

第2次 普遍単位と長方形と正方形の面積

- ④1辺が1センチメートルの正方形の面積が1平方センチメートル (cm^2) であることを知る。 1 H
- ⑤長方形の面積の求め方を考える。 1 H
- ⑥必要な辺の長さを測り、長方形や正方形の面積を求める。 1 H
- ⑦複合図形の面積を求める。 1 H

第3次 大きな面積の単位

- ⑧1辺がメートルの正方形を作り、面積の単位1平方メートル (m^2) を体感する。 1 H
- ⑨面積の単位アール (a) ヘクタール (ha) を知る。 2 H
- ⑩面積の単位平方キロメートル (km^2) を知る。 1 H
- ⑪習熟・評価 * 1 H

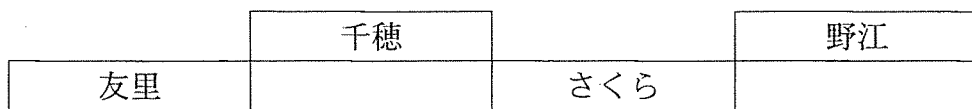
12. 本時の目標 2/12

- 場面に適した広さくらべの方法を考える。
- 広さくらべに関心をもち、比べ方を考えようとしている。
- 自分の考えを発表する。

13. 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価他
<p>前時を想起する 重ね合わせて比べる。 平らな面の広さを面積という。</p> <p>教室の前の給食台と横の台の広さ比べをする。どちらが広いか。 ◎どんな方法で比べたらいいのか考える。 重ね合わせて比べられない。 教室の中にあるもので測る。</p> <p>隣席同士で相談する。</p> <p>一人ひとり発表する。</p> <p>実際に測る。</p> <p>まとめる。(間接比較)</p>	<p>(直接比較)</p> <p>どの給食台とどの台を比べるのか確認する。</p> <p>(間接比較と個別単位)</p> <p>カレンダー ノート・教科書・下じき 模造紙(以上広さ) ものさし(長さ)</p> <p>どの意見も取り上げる。</p> <p>置く・切る・貼り合わせる・測る 時間が足りない場合は次時に継続する。 まわりの長さでは比べられないことを明確にする。</p>	<p>前時のがんばりをほめ、本時の課題に意欲的に取り組めるようにする。</p> <p>前時での学習内容をふりかえっているか。 (平らな面など)</p> <p>広さ比べに意欲的にとりくんでいるか。</p>

14. 座席表



この授業の研究会で、同僚からのコメントは、

- ・人間味あるふれあいのある、あたたかい授業
- ・色画用紙、消しゴムなど個別単位を選択させ、もやもやを言語化させた。コミュニケーションよかった。
- ・(広さくらべで)「しんちゃん、5才児でもわかるように」(というアドバイス) いい。
- ・グループで相談して、一人ひとり発表がよかった。
- ・仮説を立て、検証して、結果を確かめる…
- ・思考と表現は表裏一体。活動したらもやもやするので、言語化(思考)させている。
- ・子どもたちが自信をもって、しっかり発表していた。今までの取り組みの成果。
- ・よく手を上げていた。
- ・長さだけでは、広さをくらべることはできないとわかっただろう。
- ・表現しようとしていたこと、よくわかった。比較はできた。周りの長さは縦横の長さか。
- ・(個別単位として)下敷きを持ち出していた。
- ・(個別単位として)画用紙がピタッとはまった。
- ・「はみ出て」という表現大切。
- ・小さな個別単位を持ってくる必要があったのではないか。
- ・ $4\text{ cm} + 5\text{ cm} = 9\text{ cm}^2$ となったりする、面積を求める時、5年生でも、広さはむずかしい。

…

などというもので、励ましていただきました。

11月13日 楽しいけど… 友里

私は、面積の勉強で思ったことが三つあります。

一つ目は、全部で何 cm^2 でしょうか?という問題のときに、たとえば5マスな問題のときには、もう少しマスをふやしてほしいです。なぜなら、少ないマスの数なら、かんたんだからです。もっとむずかしいのをしたいからです。

二つ目は、もっとたくさんの形を作りたいです。それは、たくさん作ったら、それだけ問題がとけるからです。

三つ目は、全部の面積をもとめる「式」のことです。その式のこととは、どういう式を書いたらいいかということです。だから、 $cm \times cm$ でかけるのか、 $cm^2 \times cm^2$ でかけるのかということです。

1回目の式は、私は $cm \times cm$ にしました。でも、1回目の式を書いた時は、先生が書いた式があるかどうか言ってくれなかったので、あっているか不安でした。

2回目の式は、1回目とちがい、 $cm^2 \times cm^2$ でやりました。

先生が式の答えを言う前は、ドキドキしました。なぜなら、自分の答えがあっているかどうか心配だったからです。

先生が答えを言ったときは、まちがっていると気がつきました。その時私は、 $cm \times cm$ でよかったんや！と思いました。自分では、ちょっとおもしろいことをしたなあと思いました。

もっとたくさんの形を上手に作って、がんばって問題をときたいです。
○そうですね。がんばれ！いつもさえている彩華さん、長さ×長さが広さになる、友里さん、いい考えだったので、そのとおりだったので、とても残念でしたね。先生もね。これからも自分の考えを大切にね。楽しみにしていますよ。

論理的に考えていくことが十分ではないと思っていましたので、予想する、考えることを楽しんでとりくみ、認識を育てることになったのではないかと思います。操作活動、たしかめる活動をふんだんに取り入れたこともよかったと思います。

11月25日 楽しかったなあ 千穂

体育館で、新聞を組み合わせて作った $1m^2$ の紙をならべて、 $100m^2$ (1a)を作った時間が一番楽しかったです。その理由は、じゅ業だけど遊びに思えてきたからです。

2番目に楽しかったのは、にているけど1aを作るために作った $1m^2$ の107枚分です。わたしは、テープではったり新聞を重ねたりするのが、とても楽しかったです。

… (以下略)

(5)「戦争のころの子どもの暮らし」社会科 1・10～1・29

80年代から90年代にかけて、4年生を担当すると地域の開発の歴史と戦争のころの暮らしを扱ってきました。後者で『吹田にも戦争があった』のように、子どもたちの祖父母から聞き取りで、日本中「どこもかしこも」戦争であったことがわかりました。

次第にねらいにそう聞き取りがむずかしくなってきたと思うようになりましたが、「平和を守り、真理・真実を貫く民主教育の創造」、教研のテーマをふりかえる原点としてきました。きな臭さが増してきた昨今、保護者から相談がありました。「父から子どものときに、父の姉が戦争中病気、栄養不足で亡くなったと聞いた。子どもにそのことを伝えたいのだが、父が話してくれるだろうか。先生にそのことを学校で教えてもらえないだろうか。」そして、

10・2(水)ふれあい交流給食で夢や希望…

ここでも、お出でいただいた方6人に「10才のときの夢」を語っていただきました。「戦争が激しくて…」「夢なんかなかった。食べるものがない。早いこと、戦争が終わればいいと思っていた。」「父が戦死して、貧乏で…」「戦争中で、山にサツマイモを植えに行った。焼夷弾が落ちて…。勉強しなかった。お昼ごはんは薄い薄い汁(?)。夢や希望なかった。今は畑で元気に生きている。」「戦争中、勉強もできなかった。」などなど、戦争中の暮らしにふれられていました。楽しみといえば将棋、いじめられたことなどや医療に感謝しているというお話もありました。(不確かなメモをもとに書いていますので、まちがいがあるかもしれません。お許し下さい。)子どもたちがびっくりした「今とちがう昔があったこと」から「今とちがった未来」(成長する自分)へと心を羽ばたかせていければと思いました。…

(10・7学級通信32号)

「1/2成人式」を意識しての問いかけだが、戦争のころの暮らしの一端を話していただきました。

そこで、子どものころ体験した戦争中の暮らしを話していただこう、保護

者の祖父母と交流給食で話していただいた方から、数編の聞き取りが可能と考え、計画しました。

戦争とは、殺し、殺されるくらしの破壊そのものです。その一端を地域の子どものくらしから知り、地域の人々の願いに気づいてほしいと考えました。

そして、次の点に留意しました。戦死した場所が外国であること、日本からはじめた戦争であることを、戦死者のお墓調べで知らせることです。中国に対してはじめた戦争であること、主戦場は中国であったことも。このことは、くらし・疎開・空襲を取り上げると、子どもたちは被害の面が強く印象に残り、侵略戦争ゆえの惨禍であることに目を向けないからです。「1931年（昭和6年）からはじめた中国との戦争は、しだいにはげしくなりました。1941年（昭和16年）からは、アメリカ、イギリス、フランスなども戦争をはじめました。」15年にもおよんだ「長く続いた戦争は、1945年（昭和20年）8月15日、日本の敗戦によって終わりました。」と『聞き取り冊子』に記したのも、そのためです。

また、書いていただいたことを理解しようとする関心を高めるためにも、お墓調べから学習に入りました。

1. ねらい

- ・戦争によって、地域の、子どもたちのくらしが破壊されたことを知り、戦争中の人々の願いを知る。
- ・戦争の簡単な経過を知る。
- ・フィールドワークや聞き取りなどの学習方法を知る。

2. 指導計画（全9H）

第1次 おはか調べ

- ・フィールドワーク 2H
- ・フィールドワークのまとめ 2H

第2次 聞き取りから学ぶ <戦争のころの子どものくらし>

- ・食べ物・配給 1H
- ・空襲・疎開 1H
- ・食べ物 1H

第3次 まとめ

- ・感想文を書く。交流する。 2H

3. 実践のあらまし

1・10（金）おほか調べに行きました。（学級通信56号から）

地域のくらしを高めるしくみとして、2学期「ため池」を調べました。くらしを豊かにしようとした地域の人々のねがいが、ため池にあるということを知りました。江戸時代、近世から続けられてきた地域の営みです。その当時、大きくくらしを変えたことでしょう。そして、地域のくらしを大きく変えたものの一つに「戦争」があります。保護者の方々、地域の方の協力を得て、戦争のころのくらしを学習することにしました。戦争のころの地域のねがいを考えていきます。（あと一つ、地域のくらしを大きく変えたものに「高度経済成長」期があります。）

はじめに、稲地の法華寺でお墓調べをしました。戦没者墓苑として8基、門前に2基、あわせて10人の戦争に行き、亡くなられた方のお墓があります。法華寺さん、総代さんのご厚意を得て、調べさせていただきました。6年生といっしょに行きました。

寒い日でした。お祈りの後、子どもたちは真剣な表情で、お墓に記されている、戦死した年月日と場所、亡くなられた年令をプリントに書き入れています。

野江さんの感想文です。

1月10日（金） おほか調べ 野江

今日、3・4時間目に4年生と6年生で、ほっけ寺に行きました。わたしは、戦争でおなくなりになった人のおほかと、病気などでおなくなりになった人のおほかは、名前も外同じと思っていました。

でも、今日の勉強で、戦争でおなくなりになった人のおほかは、一番上の頭がとんがって、病気などでおなくなりになった人のおほかは上の頭が平たく、ぺたっとなっていました。だから、いい勉強になったなと思いました。

ほかには、おほかの横に、「昭和19年」などが書いてある横に、年れいが書いてあり、「二十四才」などが書いてあり、まだ、そんなに若いのに…と思っています。わたしは、たぶんもっと生きてかったやろうな—と思っています。

もっとおほかや戦争のことを、いっぱい勉強したいです。

1・15 (水)「もっと生きてかった」と思うーおはか調べから (58号)

教室では、いつ、どこで戦(病)死されたか、亡くなった年齢などをまとめました。はじめに、戦死された場所を調べました。戦(病)死した場所を地図に落としていきました。「アジア・太平洋戦争」のほぼ全域にわたっています。

記録と地図から、まとめていきました。

C「若いのに亡くなられて、かわいそう」

C「もっと生きてかった」と思う

C「S19・20年が多い」

など次々と発表がありました。

C「アメリカと戦争していたのに、中国でなくなっている」

C「中国で戦争していたのかな？」

C「ニューギニア、フィリピン、マリアナなどで戦争しているのかな？」

T どうしてそう思うの？

C「戦死者が多いから」

T そうです。「中国・太平洋で戦争」していたんだ。1931年からね。

能勢町全体でおよそ300人の方が戦死されています。…

戦争があった中国、太平洋の人たちは、どんな気もちだったんだろう？

C「こわい」

C「もういいや」

C「めっちゃこわい」

C「みんなにげよう」

C「死なない！」

「いややなあ」

「日本に負けないぞ！」

T 日本は？

C「つらい」

2014.1.10 東へい作調べ

平田え	板谷え	39	平田え	板谷え	平田え	南え	園え	25
24	25	中華民国 湖南省	28	36	31	34	25	25
中華民国 湖南省	マリアナ群島 テニアン島	中華民国 湖南省	ニューギニア	北朝鮮	ニューギニア		フィリピン	ノモンハン 朝鮮半島
S 20	S 19	S 20	S 19	S 21	S 19	S 19	S 21	S 12
S 5	S 9	S 5	S 5	S 6	S 5	S 27	S 15	
S 10	S 30	S 8	S 6	S 9	S 5			

「アメリカと戦争していたのに、中国でなくなっている」という発表は、
 ‘太平洋戦争’とか‘アメリカと戦争していた’など言われることが多いこ

とからの発表・疑問だと思いました。日本歴史学会などでは、長期にわたって主戦場になっていたのは中国・アジア諸国であるということから、「アジア・太平洋戦争」と呼んでいます。その期間もいわゆる「満州事変」の1931年～1945年、日本の敗戦までの15年としています。(つづく)

1・15 (水)「もっと生きてかった」と思うーおほか調べから2(59号)
(つづく)「満州事変」などは子どもたちには教えませんが。

最後の「つらい」、意味内容はよくわかりません。問い返せばよかったかもしれません。戦死されたことを指しているのか、中国、太平洋の人たちに対してのものなのかは、わかりません。いずれにしても、外国に行って戦争していたということがわかればよいと思いました。それは、次の時間から、書いていただいたのが、日本国内の戦争のころのくらしだからです。

次時からご協力いただいた『戦争のころのくらしについて、教えていただけませんか』を使って、学習を進めていきました。

1・28 (火)、29 (水)まとめと感想 がんばった子どもたちです

プリントを学習して、わかったことをまとめました。わかったこととして「食べものがない」こと、そして「配給」などが大きかったようです。当時の子どもたちのねがいは「早く戦争が終わったらいいのに。」今、「平和をいのる」と想像しています。小さく書かれていることは子どもたちの感想です。感想文を紹介します。

1・28 (火) 戦争のころのくらし 友里

私が思ったのは、昔と今とちがって、食べ物がなくてとてもこまっていたと思います。食べ物がなかったのに、昔の人はよく生きていけたなと思いました。

どこも、お父さんやお兄さんが兵隊にとられたから、家族もとられた人もいやだったと思います。

学校でも勉強できなくてかわいそうだと思いました。それに学校に行けない人がいて、かわいそうだと思いました。

私が戦争している時代にいたら、ぜったいに泣いてあばれまくっていると思います。こわいし、にげたいから。

今の暮らしと昔の暮らしは、ちがっていると思います。私が生きていたときには、ぜったいに戦争をしない、平和がいいです。

1・29 今までの感想 野江

私をはじめで知った事は、電球に黒いぬのをかぶせるということです。はじめは、「何で黒いぬのをかぶせるの？」と思いました。それは、家に光がいったら、そこにばくだんが落とされるかのうせいが高いからです。

あとは、そ開で親からはなれると知って「つらいなー」と思っています。親とはなれたら、母さんや父さんに会えないからです。

あと、ごはんが十分に食べられないということです。1回でも十分に食べさせてあげたらいいのになーと思っています。一番のごちそうがおかゆさんなので、びっくりしました。

それがはじめて知った事です。

もうちょっと調べたい事は、戦争で何人位、戦争に行ったのか？ どんなことが一番大へんだったか？などを聞きたいです。戦争のことをいっぱい知りたいです。

4. 実践をふりかえって

「戦争によって、地域の、子どもたちの暮らしが破壊されたことを知り、戦争中の人々の願いを知る。」という大きなねらいは、ほぼ達成されただろうと考えています。地域のお墓調べから「戦争とは死である」ことをつかみ、その後の「聞き取りから学ぶ」学習を意欲的に行うことができたと考えています。身近な祖父母、地域の人からのものであることもあいまって。

「戦争の簡単な経過を知る。」については、6年生での学習に期したいと思えます。

「フィールドワークや聞き取りなどの学習方法を知る。」、前者はしっかりと身に付けたのではないかと考えています。後者は、私がまとめたものを冊子として教材としたので、祖父から聞き取ったものをほぼ手を入れずに載せたものや、聞き取りをしていないが、断片的に聞いている子ども、全くしていない子どももいるので、この実践では不確かです。が、この前に行った「ため池」の実践では行ったので、両者とも今後の学習で活用できると考えています。

いずれにしても、野江さん、子どもたちは、意欲的に学習に取り組みました。

(6) 「二分の一成人式」 総合(国語科・保健) 1・10～2・26
学年発表2・24

1. ねらい

- ・自己肯定感を育み、希望を育てる。
- ・今に至る時間認識を育てる。
- ・論理的な思考力を高める。
- ・子育て肯定感を高める。
- ・みんなで発表会をつくる。

2. 展開 1月 全21H+4H

(1) 導入

- オリエンテーション 1H
- 手形・足形をとる 1H
- 命の誕生 1H
- 誕生日カレンダーをPCでつくる 1H

(2) 展開 その1

- 聞き取りをもとにして自分史を書く 3H
 - ・命の誕生から入学前まで・入学から4年生まで・今の私と20才の私
- 自分史を写真や思い出の品とともに発表する 3H
 - ・命の誕生から入学前まで・入学から4年生まで・今の私と20才の私

(3) 展開 その2

- 参観での発表会(練習・発表会) 2H
- 3校交流での発表会(練習・発表会) 1H+3H
- 児童集会での発表会(練習・学年発表) 1.5H
- つづり方集会での発表 1H
- 1/2成人式(学級会・お祝い) 2H

(4) 学習をふりかえる

- 学習をふりかえる 1H
- 自分史本づくり 2H

3. 実践のあらまし

(1) 導入 (略)

(2) 展開 その1 綴る

○聞き取りをもとにして自分史を書く

○自分史を写真や思い出の品とともに発表する

家族から自分の幼かったころのようすを聞く、まとまって聞く機会はそうそうあることではありません。大切に育てられてきたこと、愛情いっぱい育てられてきたことを感じたことでしょう。自己肯定感を育んだことでしょう。親にとっても慈しんで育てたこと、子育て肯定感を感じ、楽しい家族団らんの時だったと思います。しかも、聞き取りは大切な学習方法でもあります。

それを再構成して、綴る。書くことは認識を深めることです。どの子も静かに綴っていきました。命の誕生から入学前まで、入学から4年生まで、今の私と20才の私と、自分史を書いていきました。そして、みんなの前で読んでいきました。そのころの写真や思い出の品々とともに。

・命の誕生から入学前まで

小さいころのわたし

千穂

わたしは、平成15年、8月16日、午後2時22分に、生まれました。

その時の体重は、3244グラムで、身長は、50センチメートルだったそうです。「千穂」という名前がつけられました。その名前の由来は、…
(略) わたしは、この名前が気に入っています。

わたしが0～3才のころのことを話します。

生まれてから3か月くらいの間は、能勢の家にはいたそうです。お父さんの方のおじいさん、おばあさんにとっても、お母さんのおじいさん、おばあさんにとっても、初めての孫だったので、みんなから大事に育てられました。

1才半くらいの時に、弟が生まれました。

その子には、心ぞうの病気があったので、3か月の間まで入院していました。お母さんは毎日病院に通っていたので、その間は、おじいさんやおばあさんの家にあずけられることが多かったそうです。

2才から、保育所に行きました。

いつも、お母さんのおむかえがおそかったので、いつも、大好きな「ねこ」や「女の子」の絵をかいて、待っていました。

わたしが3～5才のころは、保育所で、よく友だちの「みどりこちゃん」とぬいぐるみの取り合いやごっこ役の取り合いなどで、はり合っけてケンカをしていたことを、よく覚えています。

年長さんの時に、能勢に引っこして来たので、豊能町の「双葉保育所」から「のせ保育所」に変わりました。でも、はずかしがりやで、人見知りだったので、なかなかみんなの輪に入っていけませんでした。

だけど、しばらくするとなれてきて、友だちと女の子の絵をかいたり、シールをはったりして遊ぶことが多くなってきました。そうして、友だちが増えて行きました。

入学のころは、学校に通うのが楽しみだったので、ひらがなやカタカナの練習を、一生けん命していました。

そして、学校に行くと、わたし以外に1年生の4人の友だちがいたので、とても楽しかったし、うれしかったです。

この作文を読んで、彼女の家庭環境の大きな変化にともなって、行動の様子に変化が見られると思いました。「はりあって、ケンカをしていた」のに、「はずかしがりやで人見知り」「なかなかクラスのみんなの輪に入っていけない」などです。よく手をあげて発表することがありますし、音読によく取り組むなど宿題にがんばり、音読も上手です。でも、どことなく自信がないようなのです。自己肯定感が十分でないと感じていましたから、聞き取って、表現することで、自分を好きになってほしいと思っていました。「だけど、しばらくするとなれてきて」「友だちが増えて行きました。」とあり、よかったなあと思いました。母親、祖母のがんばりがあったのでしょうか。そして、「お宮参りにかぶっていた帽子」や「小さい時使っていたハンカチ」をうれしそうに見せてくれました。

0才～入学時のころはこんなだった

野江

私は、平成15年6月20日にたん生しました。身長45cm体重28.8kgでした。私は兄より重かったそうです。

お医者さんに、「かわいい女の子だね～」と言われて、近所の人にも「かわいらしい女の子ね」「元気な子や」と言われていました。私は、家族にも近所に人にも愛されているんだなあと思いました。

名前の由来は、兄はおじいちゃんの名前…私はばあちゃんの名前…願い事がたくさんかないますようにということです。

私は、兄より育てやすかったそうです。それは、兄はさわりだりよく泣いていたけど、私はふつうでよくねて、おとなしかったそうです。

母と買い物にいった時、私が「おかしほしい」と言ったら、母が「だめ」と言って、なぜか「たすけて～」と大きな声を出して言っていたそうです。私は、とてもはずかしいことをしていたんだな～と思いました。

兄とよく遊び、たまに兄のまねっ子をしていた時もあったそうです。兄の顔をけったり、足をふんだりもしていました。

お風呂に入って大泣きしていても、悲しい時もお風呂に入ったら、すぐに笑顔になり、湯船につかると「ホット」という声を出して、笑っていました。私は、そんなにお風呂が好きだったんだな～とっていました。

昼ねて、夜起きて、毎日、歌がきや田じりを一周、車で母と父で散歩に行っていました。散歩の途中で母にだかれねていました。

母と私二人で梅田に買い物に行っていたら、スカウトされたことがあったそうです。私が、スカウトされるとはゆめにもありえない事だと思っています。

入学の時は、わがままはいわないけど、おねだりは多かったです。兄より自転車の乗るのが早かったです。おこりんぼうで、兄とけんかばっかだったけど、すぐに仲直りしていました。よくしゃべり、はずかしがりやじゃないから、すぐに友だちができていました。よく遊ぶ元気な子だったそうです。よく転んでほとんど毎日、兄におこられていました。

赤ちゃんの時は、兄よりおとなしい、育てやすかったけど、今はやんちゃで育てにくいと思います。赤ちゃん時代みたいにおるす番もできて、おとなしくなりたいなあ～と思います。

学級の人数が少ないと人間関係が固定化してしまい、上下関係やいじめが発生して、それを克服しにくくなると言われています。そうであっても、一人ひとりの成長・発達を育み、自己肯定感を豊かにする営みこそが問われる

のではないのでしょうか。このことは「普通」規模の学級・学校でも同じです。

自分の感情に左右されて、悪口を言ったり意地悪をしたりして、他の女の子たちにとって「こわい」存在で、「君臨」してもしました。でも、野江さんは、この練れてはいない作文ですが、最後の段落で「今はやんちゃで育てにくい」存在で、「赤ちゃん時代みたいに…大人しくなりたい」と、自分を変えたいと願っています。

この発表の時、エピソードとして、「お母さんが1才から4才ごろまで、いないいないパー」「0才から使える百人一首」をしてくれたことや、そのころ使っていた爪切りを持ってきて、うれしそうでした。子どもたちも楽しそうでした。人気者でもある野江さんの発表ですから。

・入学から4年生まで

入学の時から4年生までの思い出

さくら

入学から4年生の思い出で一番心にのこったのが、給食を食べている時クイズをしたことです。例えば「私の犬の名前はなんでしょう？①チェコ②メロ③ポチ、その中で、番号で教えてください。答えはポチでした。」と私が言っていました。みんなは、当たってうれしそうでした。もう一つは外でたこ揚げをしたことです。あんまり飛ばなかったけど、と中から風が吹いてきて、高〜く飛んでうれしかったです。

2年生の時の思い出は、赤ちゃんのころのアルバムを作ったことです。アルバムを作って思ったことは、「生まれてからこんな大きくなったんだなあ」と思いました。クラスの中で、私が赤ちゃんのころの体重が一番重いです。もうひとつは、運動会です。にんじゃをおどつてると楽しくなったからです。

3年生のころは、理科が大好きでした。例えば、3年生の終わりにぐらいにスライムを作ったことです。それが一番楽しかったです。もう一つは、七輪でもち焼きをしたことです。楽しい思い出ですが、私がゆっくり食べていた理由は、のどにつまるとこわかったから、ゆっくり食べたことも覚えています。

4年生では、初めての男の先生です。さいしょは、「女の先生かなあ」と思ったら、男の先生でした。すごくおもしろい人です。どんなところがおもしろいかというと、じょうだんを言うところです。例えば「26才です」とう

そをついているのを分かってました。心の中で「6才やのに、なんで2才やねん。そんな若くみえへんけど…」と思いました。

もう一つ4年生で楽しかったのは、委員会です。最初はどきどきしたけど、何回か委員会があったら楽しくなってきたからです。どうして楽しくなったかという、最初「放送いけるかなあ」と心配だったけど、何回も行ったら、きんちょうしてたけど、心の中で「放送、楽しいなあ」と思いました。

ふり返ってみると、4年生で委員会が始まったから予定で「月曜日委員会です。」と言われたら、心の中で「やった〜」と思っていました。もし委員会がなかったら「委員会ないん？」と思っています。でも楽しい4年生なので、今の3年生は4年生になったら、きっと楽しくなると思います。

もうちょっとしたら4年生終わりだけど、もっと楽しいことをしたいです。「私はこんなに大きくなったんだなあ」と思いました。また5年生になったら、いろんなことをして、みんなを楽しませたいです。

さくらさんは英語が母語でもあります。日本語もそうなのですが、それらの言語で思考が展開できないようです。聞き手の子どもたちの中から、アメリカには何才までいたのか？と尋ねられ、生まれてから3才まではアメリカ、4才から日本とのことでした。1年生の時、担任の先生が「日本語で考えられない」と困っていました。兄さんを担任したことがあって、しっかりと日本語で学習していましたし、『ハリーポッター』を原文でも読むお子さんでした。やさしい男の子でもありました。さくらさんも気持ちのやさしい女の子です。4人兄弟の末っ子だからでしょうか、みんなからやさしくしてもらえ、自己主張しなくても要求を受け入れてもらえる存在だったようです。1学期は毎日のように放課後電話がありました。宿題についての問い合わせで、連絡帳に書かせて、説明するだけでは理解できないのです。野江さんにつらく当たられてもいました。そこで、たくさんのおしゃべりを用意しました。兄は家でたくさんおしゃべりをしていたそうで、「ことばのシャワー」を教室でもと考えました。毎日容易にできる時間は給食時、先生方にお客さんになってもらい、楽しい給食をいっそう楽しいものにしようと考えました。

子どもたちから「志村先生の冗談を書いている、おもしろいと思いました。」「クラブはどうなん？」「(低学年のころの)写真、お姉ちゃんに似ていますね。」などがあり、千穂さんから「控えめだったけど、放送委員会が楽しい

と言っている。正直に自分の気持ちを書いている。」と励ましていたのが印象的でした。自分の気持ちを言えず、「いや」を言えず、ストレスを溜めてしまうさくらさん、うれしかったでしょうね。

野江さんも『入学時の時から今まで』を書きました。そのおわりに、
…1年生から今までは、せいかわかっていないと思うけど、身長は大きくなっています。

先生は、「大きくなっているよ」と言ってくれました。わたしは身長だけかなあと思っていましたが、先生の言葉を聞いて、「そうか」と思っていました。わたしは、色々な事に挑戦してみたいと思いました。

子どもたちから「クラブはめんどくさい？」とか、「色々な事に挑戦、いい言葉だなあと思いました。」とか「よく思い出して書いている」などと質問や感想が出されていました。

私の伝えたメッセージ「大きくなっているよ」を書き記す、「1年生から今までは、せいかわかっていないと思うけど」「(大きくなっている) そうかと思っていました」そして、「色々な事に挑戦してみたいと思いました。」と野江さんのよさ、元気さが表現されていました。

・今の私と20才の私 (略)

(3) 展開 その2 発表

「4人のせまい関係の中から、開かれた関係、広い関係をめざしました。1学期は詩や落語で、1~3年生教室へ出かけて、発表しました。授業参観もそうでしたし、三校交流でも先生役を、発表を企画してやってもらいました。」9人の先生方を毎日の給食にお招きし、その時間にミニミニコンサートもしたりしました。4回もしました。歌が好きな子どもたちで、アカペラでも歌えるのです。自信にしてほしいとも思っていました。

○参観での発表会

2月16日 生まれてよかった さくら
土曜日に、参観がありました。私は一番最初で、まちがえて「元気な私へ」

を読んでしまいました。まちがえて、はずかしかったです。

私が「生まれてから入学の時まで」を読んでいる時に、先生が1まいか2まいぐらい写真をとっていたので、すごくはずかしかったです。

でも、私ははりきって、作文を読みました。あかんかったのが、声を大きくすることと、顔を見せるところです。

つぎは、大人の人から子どもたちに読むことです。一番最初が、わたしのお父さんです。お父さんが、

「え、どうしたらいいんですか？」

と言ってたけど、赤ちゃん人形をだっこしながらお手紙を読んでくれ、思ったことは、「すごく大切にしてくれたんだなあ。」と思いました。

だから家で、思ったことをお母さんとお父さんに言いました。

「大切に育ててくれて、ありがとうございます。」

お父さんが、

「どういたしまして。」

お父さんやお母さんも、私のことを愛してたと思います。私もお父さんとお母さんを愛しています。

お姉ちゃん、お兄ちゃんが私をまっけたということは、早く私が産まれたのを見たかったからと思います。だから、私は生まれてよかったので、うれしかったです。お母さんは、私を産むのは、すごくたいへんだったそうです。うれしいなあ、さくらさん。お父さん、お母さん、お姉ちゃん、お兄ちゃん、みんな、君の生まれるのを待っていたんだ。そして、今も、大切に育てられている。うれしい×8だ！おめでとう、先生もうれしいなあ。

学級通信から

2・15（土）参観「1/2成人式」懇談

生い立ちを4人が発表しました。‘生まれてから入学まで’、トップバッターのさくらさん、「生まれてから入学の時まで」声は少し小さかったかもしれませんが、しっかりと読んでいました。緊張感はあまり感じられず、大きくなったんだなあと思いました。野江さんは「0才～入学時まではこんなだった」。後半は‘入学～今’、友里さん「私の思い出」、千穂さん「成長した私ー1年生から4年生までの私ー」を読みました。みんな、大きくなったんだ。それぞれ生まれたころの写真の紹介、楽しい時間でしたが、予定

(?)していた‘20才の私への手紙’を読む時間がありませんでした。残念！

感動的だったのが、子どもたちへのメッセージのときでした。竹山さん同士でじゃんけんぽん。赤ちゃん人形をだっこして読んでくださいとお願いしましたから。子どもたちには事前に話して、「おうちの人には秘密だよ。」勝ったさくらさんのお父さんが読み始めました。それを見ているお母さんのうれしそうなのと何ともいえない表情が印象的でした。千穂さんのお母さん、野江さんのお母さん、友里さんのお母さん、素敵でした。見つめる子どもたちの表情も。「5時間目の勉強を終わります。」終わっても、不思議な時のながれ、やわらかな空間、子どもたちとお父さん・お母さん方は向き合ったまま、そのままです。うれしくなりましたので、写真をとりました。なんと、野江さんはお母さんの膝の上。とてもうれしそうです。みなさんも。

懇談では、10月懇談以降のことをお話しました。

○3校交流での発表会

2・18(火)三校交流で「20才への私」を読みました。19人の中で、ちょっぴり緊張していましたが、ゆっくりと読んでいました。

このころの子どもたちの様子が記録されています。学級通信から。

○児童集会での学年発表やつづり方集会での発表も紹介します。

2・21(金)♪『ふるさと』の歌声が

帰り支度をしながら4年生、今日江川先生に教えていただいた♪『ふるさと』を歌い始めました。一人が口ずさむと、みんなの声となり、合唱になりました。終わりまで歌っていたのは、千穂さんかな？

その前の6時間目は、月曜日の学年発表『1/2成人式』のリハーサルをしました。その練習が終わると、なにやら、英語ルームを駆け回り始めました。とてもうれしそうです。

歌声やなにやら体を動かして友だちとじゃれる、そういう和やかさ、やわらかな空間、ゆったりとしてきたのではないかと、うれしくなりました。

2・24 (月) 学年発表 「1/2成人式のお祝い」

児童朝会で、千穂さんが「小さいころのわたしー生まれてから入学のころ」を、さくらさんが「元気な私へー20才の私へー」を読みました。とても緊張していましたが、がんばって読みました。

後半は、野江さんと友里さんが進めて、子どもたちのかわいい写真、わたしの息子と私自身の1才半ごろの写真をまぜて、だれなのかを当てるクイズをしました。とても盛り上がりました。めでたし。めでたし。

「学校だより」にその時の様子が紹介されています。

「自分のいまを知る、これからのために！」先日のPTAの授業参観で、4年生が『2分の1成人式』発表を行いました。そのダイジェスト版を24日の児童朝会でも発表してくれました。時間の都合で二人が生まれてからの様子と20歳の自分宛ての手紙を読み上げました。その後、乳児の時の写真「わたしはだれでしょう」当てクイズをして楽しく、ほんわかした時間をみんなで持ちました。4年生の写真の中に担任の幼児の頃の写真も入っていました。それらの写真を見ながら、大人も子どもも全ての者が「みんなに愛され、かわいがられて大きくなって」今があることを思い起こさせてくれる時間でした。

学校だより前々号で紹介した『命の学習』(1276座)でも触れましたが、この世に生を受けるにあたって、生まれてからも、たくさんの人の見守りがあって、今があること。そして、10年後の20歳を、そして20年後、30年後…の未来をも思い描ける幸せを折に触れて感じとらせ、生かされている命を大切にさせたいと感じた4年生の発表でした。(資料)

2・25 (火) つづり方集会

けやき班で、野江さんが「入学から今まで」を、友里さんが「思い出いっぱいー生まれてから入学のころまで」を読みました。友里さんの朗読は聞くことができました。しっかりしたものでした。野江さんの朗読も同様だったようです。めでたし。めでたし。

2・26 (水) 1/2成人式のお祝いのクラス遊び

「いっどこゲーム」と「人間まちがいさがし」をしました。楽しく、朗らかにゲームに興ずる子どもたち、うれしいなと思いました。そして、まだまだ幼さをいっぱいもっていて、かわいいなと思いました。

(以上学級通信71号)

(3) 学習をふりかえる

1/2成人式での思い出

友里

私は、この勉強をしているいろんなことを作文に書いて、楽しかったです。今回作文に書いたのは、生まれた時～入学時のことでした。この勉強は、2年生の時にもやりました。その時にも、本を作ったりしました。今回本を作るときに私は、「自分の作文の字はきたないな」と思いながら書いていました。この本をずっと残して、20才の時にも、作文を読みたいです。

それに、20才の私への手紙も書きました。こういう手紙を書いたのは初めてなので、ドキドキしました。でも、書いていくと、どういうことを書けばいいのかが分かりました。

ほかの3人は、たぶん私より手紙、たくさん書いていたと思いました。私はこの手紙を読んで、今ごろだけど、「もっと書けたかな？」と思いました。手紙を書き終わった時に、「もうこれだけしか書くこと思いうかばないから、もうこれだけでいいや」と思ったから、短くかんじたんだと思います。

じゅ業参観でも、書いた作文を読みました。他にも、写真も発表しました。発表するのは、はずかしかったです。私たちが作文を読んで、「お母さんたちは、どう思ったのかな？」と思いました。たぶん、「こんなことあったな」と思いながら聞いていたのだと思います。

じゅ業参観の次は、3校交流です。3校交流では、20才の私への手紙です。他の歌がき(小)・田じり(小)のみんなも読みました。男子の手紙では、しょう来のゆめでは、「サッカー」や「プロ野球選手」のがほとんどでした。私は、「やっぱ、男子は野球選手やサッカー選手が人気なんだな」と思いました。女子の方は、いろんなしょう来のゆめがありました。みんな20才の自分への手紙に書いてあることがいろいろだったので、楽しかったです。

す。

24日の児童朝会では、千穂が小さかったころの様子 of 作文、さくらが20才の自分への手紙を読みました。ふたりが読む時には、1年生・2年生・3年生・5年生・6年生や、先生たちが静かに聞いてくれたので、私は読んでいないけど、うれしかったです。最後には、6まいの写真を書き、みんなに当ててもらおうクイズをしました。私が、クイズの写真を写すと、みんなは、

「かわいいー」

とか

「これだれやろう」

などと言っていたので、「考えてくれてるのかな」と思いました。正かいを言ったときに、

「え〜!!」

とか、

「そうなんや!!」

というおどろきの声が多かったので、私はなぜかびっくりしました。野江が写した写真の時にも、いろんなことを言っていました。写真当てクイズ、みんな楽しんでくれたかなと思いました。あと、みんな発表、がんばったと思います。

26日には4年生だけで、遊びをしました。初め決めたかくれタッチは、私の足がいたかったので、かくれタッチはやりませんでした。私は、「足がいただけで、かくれタッチをやらないなんて、みんなに悪いな」と思いました。遊びはとっても、楽しかったです。私たちみたいに、今の5年生も、こんな遊びをしたのかな?と思いました。

この勉強では、いろんなことをしました。それに、作文も書きました。とても楽しかったので、またいろんな作文を書きたいなと思いました。おしかり大きくなったのが、このまとめの文(感想文)でよくわかりました。よくふりかえって書きましたね。…大きくなった友里さん!

4. 実践をおえて

「とても楽しかったので、またいろんな作文を書きたいなと思いました。」
「最高に、楽しかったです。」「今はちょっとがまんして、泣かないようになりまし

っての感想からも、大きなねらい・自己肯定感を育み、希望を育てることは達成されたと考えています。この実践だけでということではありませんが、千穂さんはのびのびと振舞うようになりましたし、さくらさんは笑顔が大きくなりました。野江さんも自分を見つめ「元気さ」が前向きになり、お母さんの子育て肯定感も増したのではないのでしょうか。友里さんのお母さんも学校へ期待するようになり、「戦争のころのくらし」を学ばせてほしいと提案していただきました。

聞き取って、綴ることにも、子どもたちはよくがんばったと思っています。生まれてから入学前までの6年間を書く、入学から4年間を書く、長い年月をよくまとめて書いたと思います。推敲させても十分ではなかった子どももいましたが、がんばって書いたと思っています。楽しく書いたということが何よりだったと考えています。その中で今に至る時間認識を育てと思っています。

1学期、2学期に続いて、たくさん発表させました。参観での発表、3校交流での発表、児童集会での学年発表、つづり方集会での発表などなど、小規模校ならではものです。

少しは自信がついたかな、恥ずかしさ、不安をこえて、できるようになったかな…。

いずれにしても、私自身毎日が楽しいものでしたから、子どもたちも楽しい実践だったにちがいないと思っています。

おわりに、さくらさんの1年間をふりかえっての日記を紹介します。

3月15日(土) 学校一番楽しかったのは さくら

学校で一番楽しかったのは、先生たちへの「ミニミニ発表会」が楽しかったです。その理由は、恥ずかしかったけど、でも、ちゃんと先生たちにおくれたからです。

金曜日にミニミニ発表会があって、5曲歌いました。1番は「冬の歌」、2番は「エーデルワイス」、3番は「ドレミの歌」、4番は「ふるさと」、5番は「1/2成人式」です。

先生が一番気に入った曲は、「1/2成人式」だそうです。歌っている途中で、私は泣きそうになりました。でも、志村先生は泣いていました。(泣いていたかもしれない?)その後志村先生からほめてくれはったか、よくわからなかったけど、でもほめてくれました。

わからなかったけど、でもほめてくれました。

他の先生にも、1年間お世話になりました。でも江川先生が「志村先生にお世話になったから、志村先生にしよっか。」と言ってて、私は、

「えー、はずかしいからいややー。」

と思ったけど、練習したら、

「あっ、これいい考えやなー。」

と思いました。

なので、家でも歌っています。学校でも家と同じように、泣きそうになりました。私は志村先生といっしょに勉強したり、いっしょに給食を食べたりなどと、本当に志村先生といっしょにいて、うれしかったです。

志村先生の気持ちは、どんなかな？多分いっぱいほめられると思います。心の中で、

「志村先生、ありがとう！」

と思いました。志村先生、おもしろいことしてくれて、ありがとう！例えば笑い声がおもしろいことです。

志村先生、1年間ありがとうございました。

○どういたしまして。先生もとてもうれしい1年でした。ミニミニ発表会、コンサートとてもうれしかった！歌のと中で前に出てきたり、あく手とメッセージがあったり、わすれられない思い出になりました。あの時おられた「1年生たんになの〇〇先生、2年生の〇〇先生、3年生の〇〇先生、みなさん、4人、みんな大きくなったなと思っておられますよ。もちろん、先生もね。」そんなことを話したかったのですが、胸がいっぱいになったので、うまく話せませんでした。

大きくなったさくらさん、みんな、よくがんばりましたね。そして、ありがとう。

○自分史本づくりも、にぎやかに、みんなで完成を祝って写真をパチリ。

1年間の実践のまとめ

小さな学校の中でも「存在感がうすい」と言われてきた4年生、でも、

よくがんばる子どもたちでした。そのことを原動力に、さまざま取り組むことができました。子どもたちの視野を広げること、つまり認識を育てることにほかありません。かしこくなれば、どうしたらよいのか考えることができます。そのために表現することを大切にしました。自分たちが取り組んできたことを発表する。交流する。拍手をもらうという目的に向かって、力を合わせて取り組まなければなりません。十分ではないものであっても、互いに顔見知りです。受け入れてくれます。拍手をもらってうれしくなります。

また、綴るということを通して、思ったこと、考えたことを言葉にすることができます。子どもたちに日記に、作文に、学習感想文とよく書いてもらいました。知っているようで知らないお互いのくらしぶりを知ることができます。それらが相まって安心が育っていきました。「千穂さんはのびのびと振舞うようになりまし、さくらさんは笑顔が大きくなりました。野江さんも自分を見つめ「元気さ」が前向きになり、お母さんの子育て肯定感も増したのではないのでしょうか。友里さんのお母さんも学校へ期待するようになり、「戦争のころのくらし」を学ばせてほしいと提案していただきました。」と、「1/2成人式」のまとめに書くことができました。そして、これらのことは1年間のまとめでもあります。

また、こうした学級の学習・活動、生活の中で道徳性が養われるのではないのでしょうか。一つひとつに価値観の選択が行われていきます。

「人間関係の固定化」、小さな集団ですから起きやすいとも言えます。規模の大きな学校では、希薄な人間関係という固定化が起きるのではないのでしょうか。いずれにしても、子ども観が問われているということだと考えています。

まとめの冒頭に述べたように、4人の子どもたち、とても子どもらしい子どもたちでした。

(7) 小規模校のよさを考えてみました

— 「学校統廃合」に抗して

9人もの先生が入れ代わり立ち代わり、子どもたちと給食をいっしょにする、担任としてとてもありがたいことでした。小規模校でなければできないといってもいいと思います。笑顔でさくらさんをはじめ、子どもたちのたわいもない話やクイズにお付き合いしていただける、ランチタイムコンサート

を聞いていただける、楽しいお話をしていただける、私自身もオヤジギャグを連発しても笑ってもらえるのです。和やかな、ゆったりとした時間が流れていきます。子どもたちの安心がふくらみます。子どものくらしぶりがわかり、子ども理解が深まります。

統廃合後の学校では、時間の流れがちがいます。慌ただしいのです。同じ時間なのに、人の密度によって、時間が加速するような気がします。

学校で大きな時間を占める授業、ゆったりと子どもの顔を見ながら進めることができます。4人の書いた生い立ち作文をゆったりと見ることができましたし、4人の作文をすべて発表することができました。

子どもの書いた日記や作文、プリントなど以前の学校ではそれらを「処理」するのに、勢いがなければなりません。だらだらしている時間はないのです。

子どもたちにプリントを一人ひとり配布しなければいけない時があります。小規模校では取りに来ない子どもがいても、「おいで」と穏やかに促します。子どもものんびりとしたものです。が、そうではない学校では、私は「なぜきちんと聞いていないんだ」と心の中は平静ではない時があります。移動にも時間がかかります。

自主的な活動、例えば委員会活動で一人ひとり活躍することができます。さくらさんは放送委員会、朝、給食時、放課後、話す内容も多く、放送機器の操作も子どもたちだけでします。野江さんは図書委員会、低学年の教室に行き、時には一人で読み聞かせをします。

以下小規模校のよさです。

先生・大人・地域、ひいては社会、世界への信頼感を育みやすい
学校・地域の中で、子どもたちが安心感をもって、生活・活動・学習
学力を保障しやすい

おわりに

ゆったりとした時間の流れ、ゆったりとした空間の中で、仲間とのふれあいのある学習・活動を展開できるのが、小規模校であるといえます。

もっとも、家庭・地域・学校教育がゆったりとしているわけではありませんから、条件を生かした教育活動を展開しなければという問題意識がなくてはなりません。子ども観も問われます。そして、子どもたち一人ひとりが大

事にされたという実感を持つこと、憲法にもとづく主権者教育の土台ではないでしょうか、規模の大小を問わず。

能勢町は6小学校・2中学校を2016年4月に1小・1中学校に「統廃合」されました。「クラス替えのできる学校規模が必要」との理由で。東郷小学校は、2016年3月20日に閉校式を行い、140年の歴史に幕が下ろされました。

(参考)

大規模校より小規模校の方が教育効果は高いのが世界の流れ」

(子どもと教育・文化を守る大阪府民会議 2015)

「学校規模では12学級以上がのぞましいとし、11学級以下は小規模校だからと『学校統廃合』の対象にしています。しかし世界の流れはまったく逆で、『ユネスコ文化統計年鑑1999』によれば外国の学校規模(初等教育)は100~200人程度。しかも1学年1学級でクラス替えがないのが一般的で『小さな学校』『小さな学級』が主流です。教育効果を考えると『小さな学校』『小さな学級』ほど学習意欲や態度が積極的になり、子どもたちの人格形成・人間的成長にとっても効果的であることが実証されています。WHO(世界保健機構)は生徒100人を上回らない学校規模を勧告…」

『子どもの権利条約』において、「児童の人格、才能並びに精神的及び身体的な能力をその可能な最大限度まで発達させること」が求められているにもかかわらず、統廃合が行われる。保護者の不安を逆手にとって、「競争」を強化しようとしている。国連の子ども権利委員会の「子どもの数が減少しているにもかかわらず、…高度の競争主義的な学校環境が就学年齢にある子どもたちの間のいじめ、精神的障害・不登校・登校拒否、中退および自殺の原因となることを懸念する。」(第3回勧告・2010年)